魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名： 木村 譲　所属： 青森県立青森第二高等養護学校　記録日：2024年 2月 15日

キーワード：教科指導、グーグルクラスルームコメント、ワードクラウド

【対象児の情報】

・学年 高等部 1 学年

・障害名 知的障害、注意欠損多動性障がい（AD/HD）

・障害と困難の内容

授業中の発言に慎重で、特に指名されて発表する場面や生徒間の話し合いの場面を苦手とする傾向が多く見られる。言語やコミュニケーションに関する困難があり、自分の思いを伝えることが難しい、話し方が不自然であるなど、スピーチ力に関しても様々な困難さがある。

【活動目的】

・当初のねらい

本プロジェクトの対象は、青森県立青森第二高等養護学校 1 学年の生徒である。本校は、軽度知的障害を有する生徒が通う高等部単独校であり、1年から 3 年生まで全校生徒90名が在籍し、そのうち55名が寄宿舎生活を送っている。今年度の1年生は、32名中20名が寄宿舎で生活をしながら学習をしている。

生徒の実態としては、授業中の発言に慎重で、特に指名されて発表する場面や生徒間の話し合いの場面を苦手とする傾向が多く見られる。自分の思いを整理しまとめ、伝えることが難しいことや話し方が独特であったり対人的に不自然であるなど、その他にも**様々な困難さ**がある。

本プロジェクトの目標として、Google Classroom のコメント機能を利用することで、授業内容の予告や準備物などの伝達、教師と生徒の間で思考整理ややりとりを深めることができる。コメント機能の活用により、教師から生徒への情報提供・告知、簡単な評価だけではなく、生徒間のコミュニケーションを円滑にすることができる。同世代からの共感ややりとりの活性化により自己肯定感の向上も期待できると考えた。

・実施期間

令和5年5月 8 日（月）～令和6年2月26日（月）

・実施者

木村 譲

・実施者と対象児の関係

高等部 1 学年生徒

理科（4 クラス）、社会（2 クラス）、家庭科（1 クラス）の授業担当者

【実践研究活動の内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況と困難さ

① 学習活動における生徒の実態について

【生徒に見られる困難さ】

振り返りの苦手　学習資料整理の苦手　板書・メモの苦手

これまで授業の振り返りや授業の感想は、即時的に行われることが少なく、時間の経過と共に記憶が曖昧になってしまうことが多い。生徒においては、前回の授業内容を振り返ったり復習する習慣がある生徒は少ない。授業の

導入場面で前時の内容を尋ねてもノートを見たり、メモを見る生徒も少ない。
補助資料として配布したプリントや板書についても、整理が苦手だったり時間がかかったり、自分のノートでありながら読めないといった場面がある。

② 学習環境について

1） 1年生の時間割りについて

時間割りは、各学級の教室内に掲示されたり配布されたりしている。
1 時間あたりの授業時間は、50分間であり、休み時間は 5 分間、昼食・昼休み時間は75分である。金曜日に限り、寄宿舎生の帰省時刻を考慮し、6校時の終了が15時10分、SHR、下校となっている。この他、放課後（16時30分まで）には部活動や委員会活動が行われている。
しかし、授業準備や SHR で翌日の授業の準備物や場所を告知されていながら直前になって教科書やファイルを探す生徒や忘れてくる生徒がいた。また、徐々に少なくなってきたが、授業の途中でトイレや保健室に行く生徒や極端に苦手意識を言動に表す生徒がいた。
本校入学以前の中学校段階では、特別支援学級にて少人数での学習や学年に 1 人という状況である。そうした少人数の中学校生活から本校入学により、学校生活は一変する。同学年の友達が学級に 8 人、学年では32人と中学校生活から見ると数倍の人数になる。学級内、学年において次第に交友関係が広がりそれぞれの高校生活がはじまり、部活動や寄宿舎での生活と共に成長が見られる。

	3日(月)	4日(火)	5日(水)	6日(木)	7日(金)
	朝の運動				遠足
1校時	数　学	国　語	専　門	職業 職業 社会 社会	8:20 SHR 8:30 学校発 9:05 小柳駅着 9:22 青森駅着 9:30〜10:10 「ﾘ･ﾗｯｾ」見学 10:15〜12:55 近隣散策・昼食（学級） 13:16 青森駅発 13:25 小柳駅着 14:05 学校着 14:10〜 HR
2校時	外国語 外国語 職業 職業	保体 保体 理科 情報		家　庭	
3校時	社会 社会 外国語 外国語		情報 理科		
4校時	専　門	流通サービス	理科 情報 保体 保体	数　学	
5校時			音楽 音楽	専　門	
6校時		自立活動（グループ毎）	情報 理科 音楽 音楽		
備　考	オープンスクール（企業向け）	中3学校見学会〜7/7			

（図 1 行事があった場合の時間割り）

	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
	全校朝会	朝の運動			
1校時	数　学	国　語	専　門	職業 職業 社会 社会	国　語
2校時	外国語 外国語 職業 職業	保体 保体 理科 情報		家　庭	美術 美術 保体 保体
3校時	社会 社会 外国語 外国語		情報 理科		
4校時	専　門	流通サービス	理科 情報 保体 保体	数　学	保　健
5校時			音楽 音楽	専　門	道　徳
6校時		自立活動（グループ毎）	情報 理科 音楽 音楽		H R
備　考	さわやか挨拶運動③〜14 日				

（図 2 平常授業の時間割り）

【生徒に見られる困難さ】

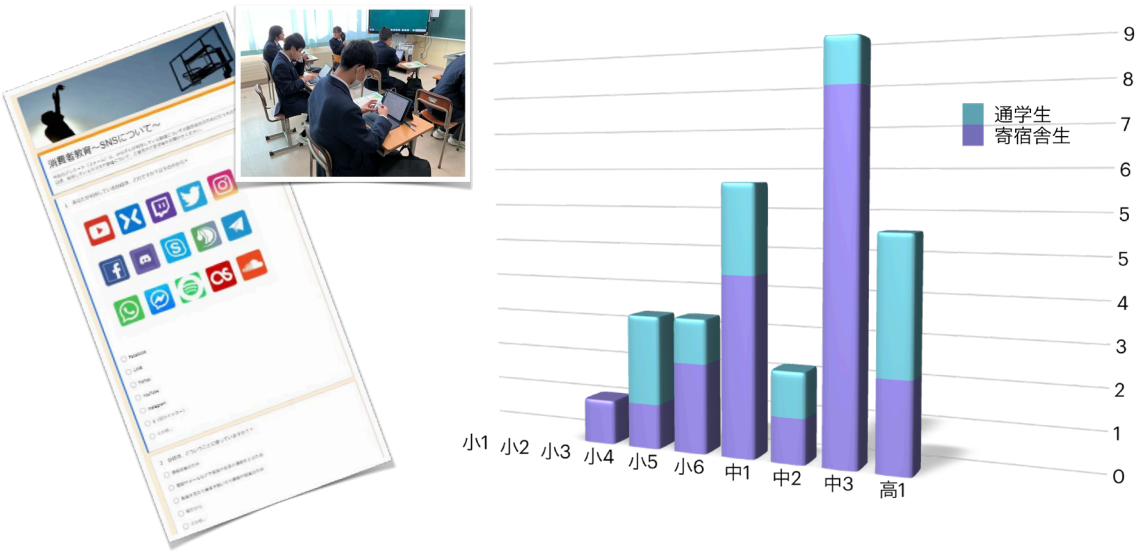
掲示物への不注意

教科による習熟度の違い
（得意・不得意）

学級内における能力差
（学習、移動、コミュニケーション）

※日常生活面や生徒指導上の課題については、本研究・報告書においては省略している。

2） 教科指導における ICT 機器の使用について



（図3 本校１年生が自分のスマホを持った時期について（社会科））

今年度より、１ 学年生徒全員が青森県が準備した iPad を使用している。（昨年度までは、奨励費端末であり、卒業と同時に初期化され生徒に返還されていた。）入学と同時期に配布された iPad は、学習ツールとして教科において使用されている。生徒によっては、既に中学時代にクロームブックや iPad を授業で使用しており、iPad の操作やアプリに関して非常に詳しい生徒もいる。デジタルネイティブと呼ばれている生徒たちであるが、入学した生徒全員が一様に、iPad の操作にたけているかというとそうではなく個人差が見られる。そうした個人差は、授業の中では、デメリットとしてではなく、お互いに教えあったり、新たな操作方法を見つけたり良い面も見られた。

【生徒に見られる困難さ】

iPad、アプリ操作	情報モラル、使用ルール	活用能力の個人差 （アプリ、ネット検索）

・活動の具体的内容

理科の授業において、年間を通して授業の後半5分間をコメント入力時間とし、１学年4学級の授業にて実施した。授業では、事前に Google クラスルームにおいて毎時間学習内容や資料を提示し、学習の板書やメモ、調べ学習のまとめには、アプリ「メモ」「Keynote」「Google ドキュメント」の中から生徒が使いやすいアプリを選び使用するようにした。

社会科の授業においては、特に消費者教育の単元において １ 学年 4 学級の授業にて Google クラスルーム

・対象児の事後の変化

はじめはコメント入力が間に合わなかったり、少ししか入力できない生徒がいたりしたが、徐々に入力ができるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

コメント内容に関しては、中間報告で推測したように、学習したことに起因するワードや授業中の活動、友達や自身の

発表に関連するものが多く見られ、生徒によっては飛躍的にコメント数や入力回数が増加した。また、これまでグーグルクラスルームでの活用があまりされていなかった教科において、Google フォームを利用したアンケートを実施した。その集計結果を基に授業をしたコメントでは活発な意見や回答が見られた。（参照：授業実践「１年生社会科の学習より～インターネットでキズつけない！キズつかない！～」）

・エビデンス（具体的数値など）

コメント入力も徐々に慣れ、同時に授業における教師への発言や友達とのやりとりも活発になってきた。

授業時数の違いがあるものの１学年４学級のうち、３学級においてコメント数の増加が見られ（表１．コメント数の推移）、コメント内容にも変化が見られた。（図１．テキストマイニング ワードクラウド １－１ について）文字数の増減については、学習内容、生徒の興味や一人一人の心身の状態などの不確定な要因から本報告で報告できる傾向や関係性については断定できなかった。

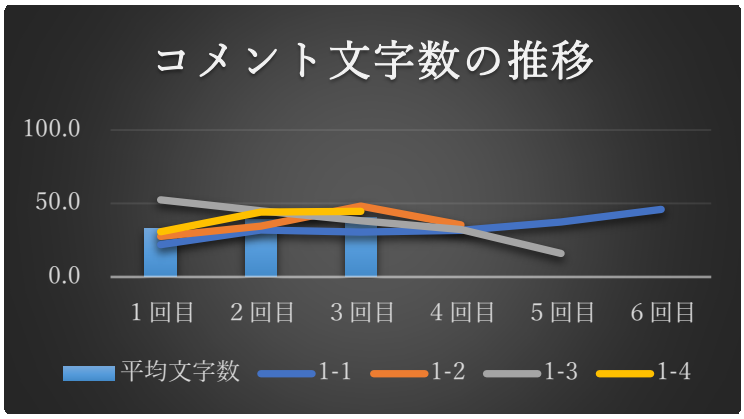
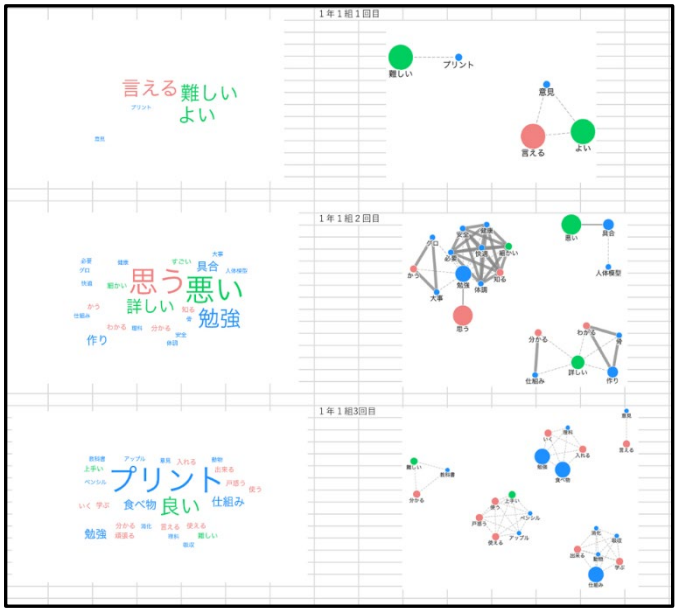


表１　コメント文字数の推移

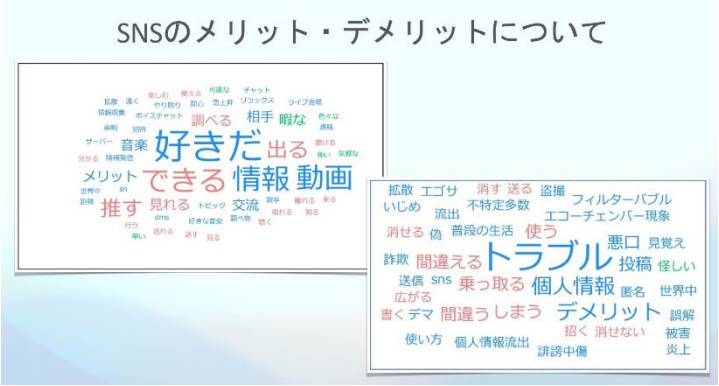
参考資料 図１ テキストマイニング（ワードクラウド １－１ について）



・その他エピソード（画像などを含めて）

授業実践「1年生社会科の学習より～インターネットでキズつけない！キズつかない！～」

社会科の授業においては、18 歳成人、それに伴うクレジット契約やトラブル対応、ネットや SNS を通した犯罪に巻き込まれない、犯罪を犯さないようにするためにどうあるべきかということを学習しました。SNS によるトラブルは1年生の間にもみられる事から、当事者意識を持って授業に取り組んでいた。



【引用及び参考】

令和5年度第2回特別支援学校における消費者教育推進検討会議 知的障害特別支援学校高等部における消費者教育～トラブルに巻き込まれないために 1 年生からできること～ 青森県立青森第二高等養護学校 木村 譲、加藤 和佳子（2024.1.16）

ワードクラウド http://japan.wordcloud.kr/

AI テキストマイニング https://textmining.userlocal.jp/